

令和5年度あいち医療ツーリズム推進協議会議事録

○日時 : 2024年2月1日(木) 午後1時から1時50分まで

○場所 : 愛知県庁本庁舎6階 正庁

○出席者 : 委員14名(代理出席3名) オブザーバー1名

(事務局) 保健医療局長、保健医療局技監、健康医務部長、医務課担当課長 他

○議題

- (1) 令和5年度の医療ツーリズム推進に係る取組状況について (資料1)
- (2) 令和6年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定について (資料2)
- (3) その他

1 開会

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 後藤担当課長)

定刻となりましたので、ただ今から「令和5年度あいち医療ツーリズム推進協議会」を開催いたします。本日進行を務めさせていただきます、医務課担当課長の後藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の協議会につきましてはすべて公開となっておりますのでよろしくお願いたします。開会にあたりまして、保健医療局長の吉田からご挨拶申し上げます。

2 挨拶

(愛知県保健医療局 局長 吉田 宏)

皆さんこんにちは。愛知県保健医療局の吉田でございます。

本日は大変お忙しい中、令和5年度あいち医療ツーリズム推進協議会へご参集賜りまして、誠にありがとうございます。また、ご出席の皆様方におかれましては、平素より愛知県の保健医療行政の推進に向けまして、格別のご理解、ご支援いただいております。重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年元日に起きました能登半島地震で被災されました皆様方につきましては、心よりお見舞い申し上げます。

また、ご出席の皆様、医療関係者の皆様はじめ、愛知県、とりわけ保健医療局

としても総力を挙げて、被災地への支援に向けて取り組んでいるところでございます。

その中でとりわけDMAT、DPAT、JMAT、それからJDAT、本当に関係各所の皆様に多大なご協力いただきまして、石川県を、県を挙げて支援しているところでございますが、そういったこともありまして、国の方から感謝されておりまして、うちの副知事の方に、国の医政局長から直接「本当に愛知県はよくやっただいている」と感謝の言葉をいただいたところでございます。本当にこれもひとえに皆様方のご支援のおかげであると考えておりまして、厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、愛知県では平成28年11月に「あいち医療ツーリズム研究会」におきまして取りまとめさせていただきましたご提言に基づきまして、平成29年2月に本協議会を設置し、地域医療に影響を及ぼさない範囲で、愛知県のすぐれた医療技術を外国人の方々に提供する取組を、官民一体となって進めているところでございます。

医療ツーリズムにつきましては、ご案内のとおり新型コロナウイルス感染症の影響が大変大きなものがございまして、近年なかなか思うようには、取り組みを進めていけない状況でございましたが、昨年5月から、新型コロナウイルス感染症の5類移行以来、徐々に海外との往来も活発になりつつあります。

本日は、医療ツーリズム推進に向けまして、今年度実施しました具体的な取組についてご報告させていただきますとともに、来年度実施予定の取組につきましてもご協議賜りたいと、このように考えて御座います。限られた時間ではございますが、どうか忌憚のないご意見を賜りたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

3 議題

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 後藤担当課長)

議事に入りますまえに、資料の確認をお願いいたします。

次第、次第の裏面には配布資料の一覧が記載してございます。委員名簿、配席図、それから資料ナンバーが以下右上に振ってございますが、資料1、資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4、続きまして資料2、参考資料1、参

考資料2となっております。不備等ございましたらお知らせいただきますよう
よろしく願いいたします。

続きまして、出席者のご紹介でございますが、本来であればお一人ずつ紹介さ
せていただくところでございますが、時間の都合もございますので、今年度新た
に御就任いただきました方をご紹介させていただきます。一般社団法人愛知県
歯科医師会副会長池山正仁委員でございます。愛知学院大学歯学部附属病院
院長三谷章雄委員でございます。

なお本日は、中部国際空港株式会社代表取締役社長犬塚力委員に代わりまし
て、同社営業推進本部航空営業部部長中津拓也様、日本赤十字社愛知医療センタ
ー名古屋第二病院院長佐藤公治委員に代わりまして、同病院副院長吉田幸彦様、
名古屋市立大学病院院長間瀬光人委員に代わりまして、同病院副院長森田明
理様にそれぞれ代理出席いただいております。

また、植村委員、坂井委員につきましては、所用によりご欠席との連絡をいた
だいております。

それでは、これから議事に入りたいと存じますが、以降の進行は、柵木協議会
会長にお願いしたいと思います。柵木会長どうぞよろしくお願いいたします。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

皆さんこんにちは。本協議会の会長を努めております、愛知県医師会の柵木で
ございます。よろしくお願いいたします。

去年の5月をもって、新型コロナも5類となったわけでございます。本協議会
の目的である医療ツーリズムがこれから活性化していくかどうかということ、
皆様とともに色々ご議論をして参りたいというふうに思っております。
円滑な議事進行をよろしくお願い申し上げます。

本協議会は一応、1時から2時までということですので、そのお時間内でご議
論いただければというふうに思っております。よろしくお願い申し上げます。

それでは座って議事を進行させていただきます。まずは議題の1番、令和5年
度医療ツーリズム推進に係る取り組み状況について、事務局より、説明願いま
す。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

それでは議題(1)令和5年度の医療ツーリズム推進に係る取組状況について、事務局からご説明いたします。医務課医務グループの浅井と申します。失礼ですが着座にて説明させていただきます。

資料1を御覧ください。令和5年度の医療ツーリズム推進に係る状況について、項目にありますとおり、4つの取組を行っております。

「1 あいち医療ツーリズム推進協議会の開催」でございます。本日のこの協議会になりますが、委員の皆様にご協力をいただきながら、医療ツーリズムの推進に向けた具体的な取組みについて、協議を行う場を継続的に設けているものでございます。

続きまして、「2 海外PR事業」でございます。今年度は新型コロナウイルス感染症や海外情勢に左右されない方法により、あいちの医療ツーリズムを継続的に情報発信していくため、多言語対応のポータルサイトを作成しております。

ポータルサイトは、海外の患者さんや国際医療コーディネーターの方々に閲覧してもらうため、日本における医療ツーリズムに関する手続の情報を紹介するとともに、掲載協力を頂きました医療機関の取組事例や強みを掲載しております。

また、これから医療ツーリズムの受入を検討する県内の医療機関に向けて、受入れに当たってのポイントとなる情報を掲載しております。

サイトの詳細につきましては、1枚おめくりいただきまして、資料1-1をご覧ください。

左上「1 ポータルサイトについて」でございます。サイト名は「A I C H I M E D I C A L T O U R I S M N a v i 愛知の医療ツーリズムナビ」としております。

次に「2 サイトの目的」でございます。このサイトを通じて本県の認知度向上を図るとともに、愛知県が医療ツーリズムの積極的な受入先であるとの認識を広げ、将来的な外国人患者受入れ人数の増加に繋げることを目的としております。

続いて、「3 サイトマップ」でございます。こちらは、各サイト内の概略を示したものとなっております。コンテンツとしまして「トップページ」、「医療ツ

ーリズムの流れ」、「医療機関検索」、「お問合せ」、「これから医療ツーリズムを始めるには」、「お知らせ&トピックス」、「動画」となっております。

資料右上「4 各ページの概要について」でございます。各コンテンツにつきまして説明をさせていただきます。一つ目の○「トップページ」でございます。医療ツーリズムを検討している外国の方々に日本の医療の強みをPRするとともに、愛知県の魅力を伝え、イメージアップを図ることを狙いとしております。二つ目の○「医療ツーリズムの流れ」でございます。このページでは、日本で医療を受けたい海外の方に向けて、医療機関で受診するにあたっての問合せから実際の治療までの流れをフロー図で示しております。

1枚おめくりいただき、左上の○「医療機関検索」をご覧ください。医療ツーリズムの受入れができる医療機関について、医療機関の特徴や受入体制、取組状況等を掲載しております。医療機関につきましては、後ほど説明いたします「医療機関向けアンケート」の際に医療機関に意向調査をさせていただき、手を挙げていただいた6つの医療機関について掲載させていただきました。医療機関のお名前を挙げさせていただきます。偕行会城西病院様、名古屋共立病院様、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院様、藤田医科大学病院様、大雄会第一病院様、東名古屋画像診断クリニック様。

各医療機関の紹介ページにつきましては、各医療機関がその都度内容を修正することができるようになっております。

左下の○「お問合せ」でございます。本サイトを閲覧し、愛知県の医療機関での医療ツーリズムに関心を持った方が各医療機関に問合せができるよう問合せフォームを設置しました。これにより医療機関と受診希望者をマッチングし、実際の受入れに繋げていければと考えております。

右側の上の○「これから医療ツーリズムを始めるには」でございます。医療ツーリズムの実施を検討している県内の医療機関に向けて、参考となるコンテンツを掲載しております。

内容としましては、四角で囲った部分になりますが、医療ツーリズム患者の受入れステップ&ポイント」、「国際医療コーディネーター事業者について」、「医療ツーリズム患者を受入れる医療機関の取組事例」、「医療滞在ビザ発給について」となっております。こちらにつきましては、一昨年度と昨年度に作成しました冊子

「愛知の医療ツーリズム～訪日外国人患者さんの受入れに向けて」の内容を踏まえ、再度、医療機関に取組事例について聞き取りを実施した上で、作成しております。医療ツーリズム以外にも、広く外国人患者さんを受入れる場合にあって、参考になるものとしてご覧いただけるものと考えております。

真ん中の○「お知らせ&トピックス」でございます。サイトの更新や周知したい情報があった際には、お知らせが掲載できるようになっております。

下の○「動画」でございます。令和4年度に作成した「愛知の医療ツーリズム」動画を掲載しております。

また、本サイトにつきましては2月7日に公開を予定しております。公開日には委員の皆様にお知らせさせていただくとともに、中国の大手メディア媒体にも周知を図っていく予定としております。資料 1-1 に関する説明は以上となります。

資料 1 に戻りまして、「3 医療機関向けアンケートの実施」でございます。昨年7月に県内の187の病院を対象にアンケートを行いました。93病院から回答をいただき、回収率は49.7%でした。アンケート結果の詳細につきましては、資料 1-2 を御覧ください。

「1 概要」の2行目の中ほどですが、令和4年度を対象期間としたアンケートを実施し、調査結果は次の2ページから16ページまで、8枚にわたりますが添付しております。この結果のまとめとして、1ページ目の一番下の「6 まとめ」にございます。

一つ目の○でございますが、昨年度は、県内5病院にて外国人患者の受入れがありました。続いて、2つ目の○でございますが、令和4年度は「中国」「ベトナム」「アメリカ」「タイ」などから患者さんを受け入れております。1枚おめくりいただきまして、3ページ目となりますが、健診・検診分野では、一番上の表で、受入れ実績のあった病院は4病院、真ん中の表で、居住国別受入れ人数では、一番多いのが中国からで16名、次にベトナムからで7名となっております。

また1枚おめくりいただきまして、裏面の4ページ目となりますが、治療分野では、一番上の表で、受入れ実績のあった病院は4病院、真ん中の表で、居住国別受入れ人数では、一番多いのが中国からで78名、次にベトナムからで13名となっております。健診・検診と治療を合わせますと、合計で126名の受入れを

行ったこととなります。

平成 29 年度から令和 4 年度までの調査結果の経緯は、資料 1-3 にまとめてあります。資料 1-3 の中段、①の表「受入れを行っている病院数と受入実績」をご覧ください。

令和 3 年度中の受入れ患者数が健診・治療併せて 14 名で、令和 4 年度は 126 名となっておりますので、1 年間で 100 名以上の増となりました。新型コロナウイルス感染症の影響からの回復の兆しを見せているかと思われます。

それでは、資料 1-2 の 1 頁にお戻りください。3 つ目の○ですが、外国人患者受入れのために実施している又はしようとしていることとして「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「国際医療コーディネーターとの連携」が多くなっています。その他の集計結果の内容につきましては、お時間の都合もございますので、説明の方は割愛させていただきます。

資料 1 の最後の「4 訪日外国人の動向について」でございますが、こちらは資料 1-4 をご覧ください。

左上「1 訪日外国人の推移について」でございます。表の「訪日外国人数」ですが、縦軸が訪日外国人数で、横軸が各月を表しております。表の下、一つ目の○でございますが、日本政府観光局の訪日外客統計によりますと、令和 5 年 10 月の訪日外国人数は、251 万人となっており、コロナ前の令和元年同月の 250 万人を超えました。

二つ目の○でございますが、令和 5 年 10 月の訪日外国人数を国別で見ますと、韓国が 63 万人、台湾が 42 万人、中国が 26 万人、アメリカが 21 万人となっています。

三つ目の○でございますが、令和 5 年 10 月の中国からの入国者数はコロナ前の約 35%に留まっており、中国国内からの訪日客は戻ってきていないのが現状です。

四つ目の○でございますが、中国では 8 月 10 日に水際対策で実施されておりました日本行き団体旅行・パッケージツアー商品の販売禁止措置が撤廃されております。また日本政府観光局の「中国市場動向トピックス 2023 年 9-10 月」によれば、日本への直行便数については、前年同月に比べ回復傾向にあるとのこと

です。

続きまして「2 医療滞在ビザの発給件数について」でございます。一つ目の○でございますが、医療滞在ビザとは、日本において治療等を受けることを目的として訪日する外国人患者等及び同伴者に対し発給されるものでございます。本県では国家戦略特区にて「早期治療が必要な場合の滞在期間の延長等」、「日本で早期治療を要する外国人の医療滞在ビザ（査証）の迅速な発給」をそれぞれ提案しており、共に全国措置がなされております。

資料右上の○でございますが、外務省のビザ発給統計によれば、令和4年の医療滞在ビザの発給件数は1,804件となり、コロナ前の1,653件を上回る過去最多の数字となりました。

次の○でございますが、こちらはその上の表の「医療滞在ビザの国別発給件数」のグラフの説明となっております。令和4年の発給件数を国別で見た場合、中国国内での発給が927件で最も多く、ついでベトナム、韓国、ロシア、モンゴルの順となっております。

3つ目の○でございますが、ベトナムにつきましては、平成29年には61件であったのに対し、令和4年には549件に増加しております。こちらの数値はビザの発給件数でございますので、実際の受入れ数と一致しない部分があるかとは思いますが、ベトナムでの日本の医療に対する需要の高まりが窺えます。

続いて、「3 まとめ」でございます。一つ目の○でございますが、本県におきまして、医療ツーリズムで受入れを行った外国人患者数が最も多かったのは、令和元年度となりまして、約1,100名でございます。その内訳として、健診・検診分野と治療分野の比率が6:4であり、また、その約8割が中国からの患者でございました。先程「1 訪日外国人の推移について」でご説明したとおり、令和5年10月以降、訪日外国人数はコロナ前の水準まで戻りつつある一方で、令和5年10月時点で、中国からの訪日外国人数がコロナ前の約35%にとどまっている状況です。

二つ目の○でございますが、中国からの訪日外国人数の動向は、例えば観光と合わせて行われるような健診・検診分野での受入れ数について影響があるのではないかと推測されます。

一方で、三つ目の○でございますが、医療滞在ビザの発給件数はベトナムがか

なり増加傾向にあります。「2 医療滞在ビザの発給件数について」のところでご説明したとおり、ビザの件数は、令和4年中で既にコロナ前よりも多くなっております。国別発給件数やアンケート調査を見ても本県の医療ツーリズムについては、引き続き中国がメインターゲットになるかと考えておりますが、ベトナムでの発給件数がかなり増えてきているというところがございますので、今後の動向に注視していきたいと思っております。

以上で、議題（1）令和5年度の医療ツーリズム推進に係る取組状況についての説明を終わります。よろしく申し上げます。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

はい。どうもありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対して、何かご意見ございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員）

長寿研の荒井ですけれども、説明いただきましてありがとうございました。

非常にすばらしいホームページだと思ひまして、このホームページは2月7日オープンだと伺いましたけれども、これは日本語だけじゃなくて、英語、中国語に対応していることかと思ひますけれども、細かい病院の紹介に関しても英語・中国語に対応してるということかどうかということが1点と、あとベトナムからの患者さんが増えてるということを反映して、ベトナム語とかタイ語とか、そういう言語を追加されるご予定はありますでしょうか。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

事務局どうですか。

（愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐）

こちらのホームページにつきましては、医療機関の紹介につきましても、三か国語で対応をさせていただいております。またご指摘ありましたベトナム語等

につきましては、この後の議題の方の、令和6年度の取組予定というところで説明させていただきますけれども、次年度につきましては、ベトナム語と、あとスペイン語の方をさらに追加していこうと考えております。

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員)

スペイン語もいいかもしれませんが、やはりブラジルとか、日系の方々もたくさんおられますので、結構我々と繋がりがあるんですけれども、ブラジルだとポルトガル語ということになりますので。スペイン語の方がもちろん数は多いんですけども、もし余裕があればポルトガル語などもご検討いただきたいというのがありますし、これは前も議論したと思うんですけれども、ベトナム、どうやって現地でこういった情報をこちらでホームページで宣伝するというか、どこでいくのかあるいはその現地で行うのか。その宣伝活動をどうするかということについて、何かプランはありますでしょうか。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

事務局どうですか。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

現時点におきましては、令和6年度の取り組みとしてベトナム、あるいは中国もそうですが、現地の方での活動というのは考えておりませんが、ただ、将来的にはまたそちらの方も検討、かつて海外の展覧会への出展を行っていたところがございますので、検討はしていくことができるのかなと考えております。

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員)

今日、御参加されている先生方も、おそらくベトナムとかに行かれて、手術をされたような経験があるという先生もおられると思いますので、そういう繋がりのある病院を中心に、パンフレットを置いていくとか、あるいは学会等を通して宣伝していただくとか、いろんな方法があると思いますので、少し検討いただければいいと思いました。以上です。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

どうもありがとうございました。他に何か、今の現在の推進状況ですね、これについても、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。星長先生でどうですか。コロナが5類になってからちょっと増えてきたという感じはありますでしょうか。

(学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員)

いや私自身はまだまだ増えていると思っと思っています。やっぱりコロナの前の時と、中国を中心ですけどね、数はかなり少ないと実感しています。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

はい。何か他に。よろしいでしょうか。

それでは続いて、次の議題ですね。

令和6年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定ですね、先ほど荒井委員から、質問が出ましたけれども、今後の予定について、事務局よろしくお願ひします。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

それでは、議題(2)令和6年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定について、事務局からご説明いたします。着座にて失礼致します。

それでは、資料2を御覧ください。令和6年度は、3つの取組を行っていく予定としております。

「1 あいち医療ツーリズム推進協議会の開催」でございます。今年度に引き続き来年度も同様の時期に開催を予定しておりますので、委員の皆様には御多忙のところ恐縮ではありますが、御出席賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、「2 海外PR事業」でございます。海外における愛知県の医療ツーリズムの認知度向上やイメージアップを図り、インバウンド需要を取り込んでいくため、多言語対応のポータルサイトを充実させ、継続して情報発信を行っていきたいと考えております。

具体的な内容につきましては、先ほどの御質問にもございましたが、「(2) 対

応言語の追加」でございます。中国へのPRに加え、ベトナムから日本への医療ツーリズムが拡大しつつあることから、当サイトをベトナム語に翻訳し公開することで、認知度向上を図って参ります。また、世界で話者の多いスペイン語にも翻訳し公開することで、広範な国々での認知度向上を図っていきたいと考えております。「(3) 広報の方法」でございますが、SNS等を用いたPRや、現地大手媒体へのプレスリリース、キーワードターゲティングによる広告などを想定しております。資料右上、「(4) グーグル・アナリティクスを用いた分析」でございます。グーグル・アナリティクスを用いまして、サイトがどの国から閲覧されているかといった情報を収集し、運用状況の分析を行っていく予定です。

最後に「3 医療機関向けアンケートの実施」でございます。県内における外国人患者の受入れ状況の変化を把握するための基礎データとして、例年、アンケートを実施しております。来年度につきましても、引き続き、6月頃に県内の病院を対象にアンケートを行う予定としております。

なお、ただ今御説明申し上げた令和6年度の取組予定につきましては、今後、愛知県議会の令和6年2月議会で審議され、これらの取組を含む予算案が可決されることを条件としておりますので、ご承知おき下さいますようお願い申し上げます。

以上で、議題(2) 令和6年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定についての説明を終わります。よろしく申し上げます。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

はい。来年度、取り組み予定ということですが、こういう取り組みでよろしいかということ含めてですね、委員の先生方のご意見をお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

これでよろしいですか。はい、どうぞ。

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員)

ありがとうございます。先ほどの点をもう1回強調したいというふうに思います。

言語について、追加していくということで、なかなかすべての言語は難しいと

思うんですけども、ある程度機械翻訳みたいな形でいろんな言語、いろんな国々の方が見られるような対策をとっていただければと思いますし、先ほど言いましたけれども、色々な病院で、おそらく個人的な関係があるところがあるかと、アジアにはあるかと思えますし、欧米でもあるかもしれませんけれども、そういう大学病院での方の繋がりですね、そういったものを、ネットワークをうまく活用することで、より多くの方々が愛知の地に来ていただいて医療を受けていただけるようになるのではないかなと思いますので、そういった、今日もご参加の委員の先生方の病院などにもですね、リサーチを行っていただくということもいいのではないかなと、こういうふうに思ってますし、我々センターも認知症の新しい薬が出てですね、どれだけ海外から認知症の薬を求めて、日本に来る方がおられかとちょっとわからないんですけども。あと目の難病に関する先進医療もおこなってますので、今、我々センターは、ここには書かれていないんですけども、例えば中国語対応の看護師さんとかですね、コーディネーターは今いないので、なかなかこう、この中に名前を載せていただくのにはかなり抵抗といいますか、ハードルがあるというふうに自覚をしておりますけれども、そういうご希望があった際にですね、愛知県の方でそのコーディネーターなど、確かアレンジしていただけるかなと思ったんですけども、新しい病院がそのアプライするときのマニュアルみたいな最低限ここは必要ですよ、みたいなことを教えていただけると大変ありがたいと思いますし、一応、会話もスマホである程度、多言語の対応ができるようになってきているので、日常会話程度であればいいと思いますけども、しっかりインフォームドコンセントを取ることが大事なので。そこは、コーディネーターが我々のような新参者に対して、ちゃんとサポートしていただけるような体制が、もし愛知県の方で組んでいただければありがたいと思っています。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

はい。川原委員。

(医療法人偕行会グループ 会長 川原 弘久 委員)

愛知県の取り組みとしては、我々のファンダメンタルとなる取組として、これ

で結構じゃないかと思います。今、荒井先生がおっしゃいましたが、実際はですね、個々の医療機関が、それ相応の覚悟でもって取り組まないと、細かいところは医療機関がやらないと仕方がないので、県は、基礎的なところをやっていただければ良いのではないかと。こういう県の取組は、なかなか、逆に言うと一医療機関ではやりにくいので、県の取組はこれでいいと思います。実際、医療ツーリズムに医療機関が取り組む場合は、それぞれの医療機関がやっぱりきちっとした組織を立ち上げて、組織的にやらないと無理だと思っています。県に100%依頼することはできないと思っています。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

ありがとうございました。

この会議にいつもその話が出ますね。川原先生はいつも、やはりそれだけの覚悟が必要で、自分のところで、通訳もコーディネーターも養成して、そのぐらいやらないとなかなか、本格的にはこの医療ツーリズムに取り組めないと。ましてや、この愛知県という地域性を考えると、どうしても、東京、大阪に流れて、また大阪は万博をやるのでしょうから、そちらの方へ、流れがいつてしまうと。

だからよっぽど、腰を据えてですね、やらないと、生半可なやり方ではやらない方がいいぞと、こういうことをずっとおっしゃっておられるわけですが、他の委員の方々いかがでしょうか。もっと県がこういうふうにしてくれたら、うちもやるけどなど、そんなご意見もいかがですか。

(医療法人借行会グループ 会長 川原 弘久 委員)

星長先生のところはどうかわかりませんが、それは赤字続きですからね、ずうっと。それを覚悟でやらないとですね。特にこのコロナでゼロになりましたからね一旦は、健診も。その間も職員はたくさん抱えていますから。そういう覚悟がいるということですね。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

おっしゃるとおりですね。

はい、伊藤委員。

(一般社団法人愛知県病院協会 会長 伊藤伸一 委員)

今日のお話を聞いて、こういう形で県からいろいろ情報を出していただいたりして、受診のきっかけとなる情報を出していただいたり、あるいは現場でも、具体的な対策をどうするんだということを教えていただいて、ありがたいと思っているのですが、ただようやく、元に戻りつつある医療ツーリズムの数というところからすると、各医療機関で積極的にその情報を集めていたり、あるいは対応を取っていくことも、重要ではありますが、今の状況からいうと、もう少しこの海外からの医療を必要とする人たちの流入に対して、県全体のマーケット確認ができるような情報を各医療機関に流していただく仕組みがあってもいいのかなというふうに思うんです。

それはどういうことかという、今の段階で、健診はとりあえず別としても、どういう疾病でこの愛知県に入ってきている人が多いのか。あるいはその人たちが、何を求めて、いわゆる日本で言う標準的な医療を求めて入ってきているのか、それとも日本の中での先進的な医療を求めて入ってきているのか、という愛知県全体の傾向というものをアンケートの中に入れて調査をしていただくようなことで、愛知県にどういうことが求められる、日本の中でもどういう位置付けなのかということがわかってくるのではないのでしょうか。それに対して積極的に受け入れたり、あるいは体制を準備したりするような人たちが出てきて、もう少し受入れの状況が良くなるのかなと思っているので、是非、そういう情報がある一定期間出していただくことで、医療ツーリズム対応が愛知県で進むのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

アンケートも漫然と出すだけではなくて、もっと疾患のニーズというようなものを、どの程度の需要があるかということ、県の方で調査して欲しいと、こういうような意向だと思います。

いかがですか。そう詳しいことまで聞けますか。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

アンケートにつきましては、医療機関の皆様にもいろいろご協力いただいているところがございますので、そのフィードバックというのも行っていきたいと考えております。来年度のアンケートにつきましては、また今後、調査する項目もしっかりと検討させていただきまして、有効に活用できるような内容に取り組んでいきたいと思っております。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

他にはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

(一般社団法人中部メディカルトラベル協会 事務長 木村慎吾 委員)

中部メディカルトラベル協会の木村です。よろしく申し上げます。

今、集客のお話が出たんですが、今回のポータルサイトを作りまして、これ集客に関しては、各現地のエージェント向け、もしくは現地の患者さん向けのポータルサイトとなっています。先ほどお話が出てました、現地の医療機関との連携というのは、なかなか患者を送ってくれるということが難しく、集客に関してはやはり医療コーディネートをしている、日本もそうですけれども、現地のエージェントから送っていただくということが多いかと思えます。で、ポータルサイトを作っていけばいいんですが、なかなか参加していただく医療機関が、今現状、6医療機関ということで、これ、現地のコーディネーターから見ると、県でやっている割にはちょっと少ないと、非常に弱いという感じがしますので、できればこのポータルサイトに参加していただける医療機関がもう少し増えるといいかなというふうには思っています。

今、6医療機関だけだと、それだけしか愛知県はやってないのかと、こういうイメージになってしまって、逆効果になってしまうかなということを私は常々思っていて、できれば、ここに参加していただいている委員の皆様、医療機関が皆さんご参加いただけるといいなと思っています。

あと、先程、川原会長からお話があったように、医療渡航の、医療ツーリズムの患者さん、結構、非常にハードルが高いです。相当な覚悟を持たないと、ということもあるんですが、そのために我々、中部メディカルトラベル協会もそうで

すが、医療コーディネーターということもやっていますので、あんまり難しく考えていただかなくても、受けたい患者さんだけを受け入れて頂ければよろしいかなど。受け入れに関しては、言語の問題が皆さん多分、すごく重要だと思っておりますが、言語の問題はそんなに大した問題ではなく、何とかクリアできるのですが、やはり文化が違います。考え方も違うので、その方との意思の疎通が一番難しい。そういうところを医療機関が直でやられると、非常にトラブルが起きますので、医療コーディネーターに任せて、言語の問題、それから医療費の回収の問題、この辺りを上手に医療コーディネーターを使っていただくと、比較的スムーズにできるかなと思いますので。ポータルサイトに関しては、1施設でも増やすようにしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

続いて、川原先生お願いします。

(医療法人偕行会グループ 会長 川原 弘久 委員)

おそらくですね、来年、また会議をやると、この内容と同じ内容しか出てこないと思います。

ちょっと医療ツーリズムから外れますけど、前回の会議で発言しましたがけれども、患者を引っ張り込むだけではなくて、スタッフを引っ張り込むということも拡大解釈して政策に入れたらどうかという提案をしたと思うんです。というのは、今、医療機関にしてみたら、患者に来てもらうということも大事ですけど、同時に、介護施設は、介護人材がもうどんどん出ていっているんですね。

むしろ医療よりも、そういう点では介護が今、崩壊しつつあるんです。特養などもろくに稼動しない状況が続いていますので。むしろそういう介護人材を、言葉は悪いですけど、インポートすると。その部分の関係が深まると、間接的に、愛知県で介護人材がたくさん集まってくると、愛知県で医療を受けようかという、そういう流れが私はできていくのではないかと思います。

だから、少し拡大解釈して、愛知県にしたってこれから認知症の方はいっぱい増えていくわけで、名古屋市などは積極的に取り組んでいますけど、愛知県の取組は弱いので。やっぱり認知症対策とか、そういうことをやっていかないと、社会が

崩壊してしまうので、そういう点で視野を広げた形の動きを作ったらどうかと思います。

患者のインバウンドの問題は経済的な問題ですけれども、介護人材の問題は、社会が崩壊する危険性がある大変な問題なので、看護師もですけれども、人材を入れるという取組を考えていかないと。おそらく来年やっても、毎年度同じ内容になってしまう。今回違うのはポータルサイトのことくらいなので。変化がなかなかできないことかもしれないが、検討してみてもうどうでしょうか。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

そういう人材をインポートするという、愛知県としての取り組みですね。これは、この協議会でやるのが妥当かどうかちょっとわかりませんが、これは先生がご指摘のように、これから介護人材をいかに確保していくかというのは、これは愛知県のみならず、全国の課題だろうというふうに思います。そういう意味ではこの協議会で取り組むかどうかは別として、是非愛知県に考えてもらう大事な課題の1つだろうというふうに思っております。

非常に、良い提言をいただきまして、ありがとうございました。

(医療法人偕行会グループ 会長 川原 弘久 委員)

先行しないと、人材確保競争になりますから。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

真剣に検討していただきたいと思います。

他に、今の人材のインポートはちょっと置いておきまして、ツーリズムの話で。

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員)

先程、川原委員からお話があったように、もちろん数を受けるためにはそれなりの医療機関の確保が必要であると。体制の構築が必要、もちろんそうだと思いますし、現在、掲載が6病院ですかね、この病院で受入れる患者さんをどんどん増やしていくことを愛知県としてサポートしていくというのはおそらく一番簡単なことかと思いますが、前も質問したと思うんですけども、東京と

大阪と比べて今、愛知県がどのぐらいなのかということと、どこまでのK P Iの目標を設定しておられるのかということによって、現状のその医療機関だけでその数が達成できるのか、あるいは新しい病院に参入してもらって、より数を増やしていこうという、そういう想定があるのかと。愛知県の意向としてはどちらの方の、現状の病院だけをしっかりとサポートするという事で満足しているということでしょうか。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

いかがでしょうか。

少なくとも目標をある程度設定してるかどうか。このぐらい来てもらうんだったらいいかなと、そういう目標設定があるかどうか、ないならないで結構ですので、事務局としての考え方がでしょうか。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

特段、対外的に公開している目標値というものはないというのが現状でございます。

医療ツーリズムは、各医療機関の皆様がご協力いただける範囲で、愛知県の地域医療に影響を及ぼさない範囲で取り組んでいくこととしておりますので、各医療機関の方で取り組んでいただける範囲内で、進めていただければと考えております。

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 委員)

そうすると、この会議そのものを持つ意味があるんですか。その各医療機関に任せているという状況であれば、こういった会議で議論する意味がどれだけあるのかというふうに思いますけれども。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐)

医療機関の皆様にも、無理に取り組んでくださいというのはなかなか申し上げにくいのかなと思いますが、取組として検討してみたいと思っていられる医療機関もあるかと思いますが、全国的にも医療ツーリズムというものは話題

になっておりますので、そういったサポートを県の方でできればと考えております。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

具体的にはこういうアンケートを取ったり、あるいは、以前は、中国の展示場でアピールしたり、そういう個々の医療機関ではなかなかできないようなこと、それは川原委員がさっきおっしゃいましたように、県としてできるレベルのことを、まあ、この辺でいいんじゃないかと、こういうふうにおっしゃったわけですが、あまり県にあれをやれ、これをやれというのは、なかなかこれは難しからうというふうに思いますね。

川原委員、何かありますか。

(医療法人借行会グループ 会長 川原 弘久 委員)

うちは中小病院ですよ、はっきり言って。だけど、体制だけは整っているんで、受け入れる患者さんは、うちに健診で来たり、治療で来たりする時はやりますけれども、できない場合は、中京病院の方へお願いしたり、日赤の方へお願いしたり、あるいは藤田医科大学とかいろんなところをお願いするんですよ。それでこういうハブみたいなこともやってかないとですね、愛知県の中に広がっていかないです。実際、受け付けて、実績がある病院をご紹介すると、うちは何もメリットありませんけれども、それでもそういう努力をすることによって県全体で、そういうことに興味を持っていただいて、快く受け入れてもらえれば、広がりますよね。そういう形の活動の仕方もあります。

だから、中小病院だからって、できないわけではなくて、腹を固めてやれば、そういうことを連携しながらできる、そういう考え方をした方がいいんじゃないかと思っています。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

よろしいでしょうか。

それでは続いて、その他、今日の議題も含めて、何か委員の方からご意見等ございますでしょうか。

(株式会社メディカルサポートクリエイション 代表取締役社長 近藤康明氏)

メディカルサポートクリエイションの近藤です。医療コーディネーターとして実施していますが他県ではエージェントの方々に説明会をしております。今は、業者さんが来て、施設見学というのが以前に比べ申し込みが増えています。そのような現地でインバウンド事業を中国でやっている方たちに対して、ポータルサイトを使ってPRされるということですが、それぞれの病院はここが強みということをエージェントに説明し患者さんを連れて来て頂く方が良いのではないかなと思います。東京、大阪の方では病院が開催したりしているのですが、ここ愛知は協議会で病院が固まっているので、それぞれの病院からコーディネーターが出てきてもらい特色を出して、集めていく。実施出来る診療科を実施していければよいのではないかと考えております。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

他に何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に事務局、何かございますでしょうか。

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 後藤担当課長)

はい、事務局であります。

事務連絡でございますが、本日の協議内容につきましては、事務局で議事概要案を作成させていただき、発言された方に内容を確認の上で公表させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

なかなかやはり、それだけの覚悟、ある種の予算なり、人的パワーなりが必要だということで、そう簡単には前へ行こうというのは難しいかもしれませんが、こうしていろいろ知恵を出したり、あるいは行政の方々に、いろいろ意見を申し上げて、できることはしていただくということで、今後ともやって参りたいと思います。

それでは本日の会議はこれで終了させていただきます。委員の皆様方におかれましては、議事の進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。